

関連イベント

吉田志穂個展「印刷と幽霊」の関連イベントとして、以下のイベントを開催。
※詳細は BUG ウェブサイトをご確認ください。

トークイベント：森啓輔(千葉市美術館学芸員) × 吉田志穂(本展出品アーティスト)
2024年11月2日(土) 19:00～20:30
会場：BUG



詳細／ご予約

トークイベント：小野寺奈津(国立新美術館特定研究員) × 吉田志穂(本展出品アーティスト)
2024年11月30日(土) 19:00～20:30
会場：BUG



詳細／ご予約

吉田志穂個展「印刷と幽霊」× BUG Cafe コラボメニュー

併設の BUG Cafe にて、会期中限定コラボメニューを販売

「紫芋のゴーストラテ」650円(税込)
インキの滲みや実態のないゴーストを、紫芋を使ったドリンクで表現しました。
秋にぴったりな優しい甘さと香りを、展示空間と一緒にぜひお楽しみください。

吉田志穂個展「印刷と幽霊」

会期：2024年10月30日(水) - 12月1日(日)
主催：BUG
協力：Yumiko Chiba Associates、LIVE ART BOOKS

アートディレクション：小池俊起
キュレーション：石井貴子、檜山真有 (BUG)
制作：飯野優美 (BUG)
広報：桑間千里、野瀬明子 (BUG)

翻訳：森本優芽、内山もにか、ベン・ケーガン (Art Translators Collective)

会場撮影：加藤健
インタビュー・会場映像撮影：西野正将
設営：FIGURE 17-15cas

吉田志穂個展「印刷と幽霊」



2024.10.30(水) - 12.1(日)

ご挨拶

株式会社リクルートホールディングスが運営するBUGでは、2024年10月30日(水)より、吉田志穂個展「印刷と幽霊」を開催します。吉田はこれまで、アナログとデジタルを往還させる写真作品の制作、空間全体を使ったインスタレーションにて独自の風景を築き上げてきました。第11回写真「1_WALL」*グランプリ受賞(2014)、その後第11回 shiseido art egg 入選(2017)、Prix Pictet Japan Award 2017 ファイナリスト、第46回木村伊兵衛写真賞(2020+2021年度)など数々受賞してきた写真家です。本展で吉田は、これまでとは全く異なるアプローチで新作を発表します。写真の現像やプリント、イメージの重ね合わせなどを手作業で行ってきた吉田が、オフセット印刷機で大量に複製したイメージを用いて空間を構成します。写真や印刷は、機械を通してはじめてイメージが可視化されるともいえます。時折、機械は人間が意図したイメージから外れ、肉眼で捉えることができないものも表出させることがあります。吉田は不可視の存在への探究やイメージの氾濫から、実態のないものの現出に挑みます。機械と手を組み、予期せぬエラーに身を委ねた時、イメージはどのように崩れ、何が現れるのでしょうか。日々大量のイメージを目にする私たちに、見えるもの／見えないものとは何かを改めて問いかけ、その境界線を探ろうと試みます。最後になりましたが、本展の開催にあたり、温かいご支援、ご協力を賜りました皆様に厚く御礼を申し上げます。

*2009～2022年までリクルートホールディングスが運営したコンペティション

吉田 志穂 / Shiho YOSHIDA

1992年千葉県生まれ。東京都を拠点に活動。2014年東京工芸大学芸術学部写真学科卒業。主な展覧会に、「この窓から見えるものが変わったとしても」(写大ギャラリー、東京、2023)、「記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家 vol.18」(東京都写真美術館、2021)、「あざみ野フォト・アニュアル とどまってみえるもの」(横浜市民ギャラリーあざみ野、神奈川、2021)、「TOKAS-Emerging 2020」(トーキョーアーツアンドスペース本郷、東京、2020)、など。第11回写真「1_WALL」グランプリ受賞(2014)、第11回 shiseido art egg(2017)入選、Prix Pictet Japan Award 2017 ファイナリスト。写真集『測量|山』(T&M Projects)などで第46回木村伊兵衛写真賞受賞(2020+2021年度)。



インタビュー(9分32秒)



写真・映像撮影OK



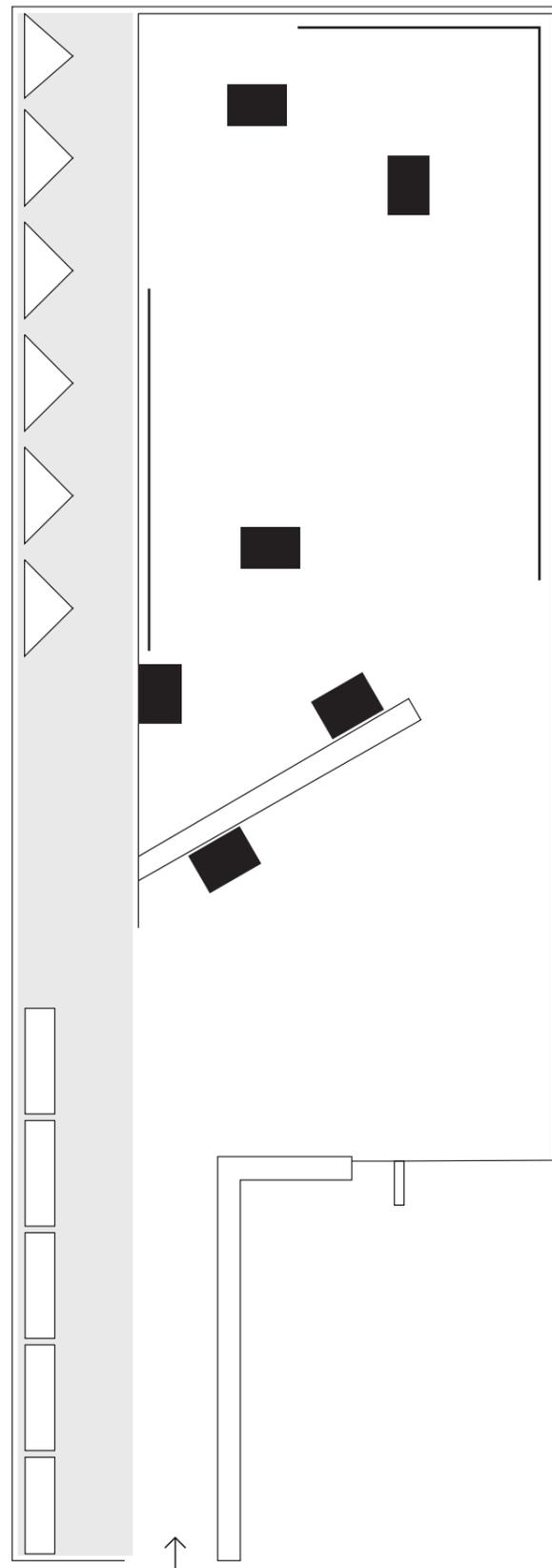
お手触れNG



防犯カメラ作動中

作品リスト

各作品について、作品名／制作年／素材／サイズを記した。全て作家蔵。



印刷と幽霊

2024

各63.6×93.9 cm

紙、オフセット印刷

各79.0×105.5 cm

オフセット印刷に使用したアルミニウム刷版、額

吉田はこれまで写真と向き合う中で、“ないようである、あるようでない”という感覚を経験してきました。この感覚を表す言葉が、展覧会名に含まれる「幽霊」です。カメラは目に見えない人柄や気配までもを写し取ったり、心霊写真の存在や“写真を撮られると魂を抜かれる”といった迷信を生んできました。写真によって、肉眼では見えない光や物体の軌道、実体がないものを実感させられることもあるでしょう。カメラやスマートフォンが普及してからは、より簡単に感情の動きや残したいと思った瞬間を写真に取められるようになりました。この感覚はある面では消え、ある面ではさらに顕著に、かつてあった光景や当時の感覚を生々しく甦らせます。本作で吉田は、さまざまな方法で幽霊（ゴースト）を表出させようと試みます。山頂で太陽を撮影し、光の反射によって生じるゴーストをレンズに取り込みました。また、GoogleMap上で見つけたゴースト現象をカメラで撮影、さらにその画像データをプロジェクターで投影した植物を撮影し、デジタルとアナログを往還させる操作を加えています。そして、吉田が過去撮影した写真ー今は取り壊されてしまった建物の写真データを水面にプロジェクションし、それを撮影しました。それらをオフセット印刷で複製するプロセスにおいて、カメラに写しとった不可視／不在の痕跡を増幅させるかのように、オフセット印刷の要である水とインキの調合をあえて崩そうとします。実際には機械がエラーを起こすのではなく、人が加えた操作によってエラーが生じます。印刷機の中で氾濫したインキによってイメージは制御不可となり、予期せぬ痕跡を表出させます。会場の印刷物、告知物全てにこの印刷のエラーが施されています。幽霊ー実体があるようでない不確かさーは、印刷機を通すことでどのような輪郭を持つのでしょうか。

鑑賞のキーワード

「オフセット印刷」

オフセット印刷は、商業印刷の中で最も一般的な印刷手法です。大量印刷を高品質に、高速で行うことができるのが特徴です。新聞や雑誌、チラシ、教科書など、私たちの身の回りにある多くの印刷物に広く使われています。

・オフセット印刷のしくみ

①「版」をつくる

印刷したい画像や文字のデータから「版」を作ります。版は印刷機にセットする、平たくて大きなハンコのようなものです。

薄い金属（多くの場合アルミニウム）でできており、印刷する画像や文字が反映されています。

この版にはインキが乗る部分・乗らない部分があり、インキが乗らない部分には水がついてインキをはじく加工がされています。1枚の版から何千枚、何万枚もの印刷物を、同じ品質で効率よく複製できます。

会場には、本展の作品印刷に使用した版も展示されています。ぜひじっくり観察してみてください。

② 転写

版にインキをつけてそのまま紙に印刷するのではなく、「ブランケットシリンダー」というゴムのローラーに一度インキを転写します。

③ 紙に印刷

最後に、ブランケットシリンダーに転写されたインキを紙に押しつけ、画像や文字を紙に転写します。

この方法によりインキが紙に均一に広がり、高精細な印刷を高速で行うことができます。

通常のカラ印刷は4つの色（シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック）を使います。各色の版がセットされた印刷機の中に紙を通し、一枚の紙に4つの色を刷り重ねていくことで最終的な仕上がりが色を再現します。

「ゴースト」

・レンズのゴースト

太陽などの強い光がカメラのレンズに入ってきた時に、光が反射してできる「ぼんやりした光の形」や「点」のことを指します。写真にお化けのような光が写り込むことから、ゴースト現象と呼ばれます。

・印刷のゴースト

印刷物に、データ上は存在しないインキの濃淡が生じる現象です。実はゴーストは、デザインやインキ量によって印刷時に発生しているのですが、皆さんの目に触れる機会が少ないのは、印刷所が細心の注意を払って撃退したり、目立たなくしているからなのです。

・Google Mapのゴースト

地図上に実際には存在しない建物や道路、地形が表示される現象をゴーストと呼びます。

Google Map は膨大な情報を用いて地図を作っていますが、古い情報の更新漏れやデータの不整合などにより、現実とのズレが生じることがあります。

例えば、あるはずのない建物や乗り物が写っていたり、かつてあった道路がまるで存在しているかのように表示されます。